

平成29年第5回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

平成29年9月12日（火曜日）

議事日程第4号

平成29年9月12日（火曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 20名

〈出席議員〉 20名

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|---|-----|----|----|---|
| 1番 | 平澤 | 惣一郎 | 君 | 2番 | 東野 | 恭行 | 君 |
| 3番 | 山本 | 剛 | 君 | 4番 | 吉川 | 慶一 | 君 |
| 5番 | 五十嵐 | 健一郎 | 君 | 6番 | 滝川 | 正義 | 君 |
| 7番 | 佐藤 | 孝 | 君 | 8番 | 新保 | 峰孝 | 君 |
| 9番 | 田原 | 実 | 君 | 10番 | 保坂 | 悟 | 君 |
| 11番 | 笠原 | 幸江 | 君 | 12番 | 斉木 | 勇 | 君 |
| 13番 | 中村 | 実 | 君 | 14番 | 大滝 | 豊 | 君 |
| 15番 | 田中 | 立一 | 君 | 16番 | 古川 | 昇 | 君 |
| 17番 | 渡辺 | 重雄 | 君 | 18番 | 松尾 | 徹郎 | 君 |
| 19番 | 高澤 | 公 | 君 | 20番 | 吉岡 | 静夫 | 君 |

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市 | 長 | 米田 | 徹 | 君 | 副 | 市 | 長 | 織田 | 義夫 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 副 | 市 | 長 | 木村 | 英雄 | 君 | 総 | 務 | 部 | 長 | 金子 | 裕彦 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 市 | 民 | 部 | 長 | 岩崎 | 良之 | 君 | 産 | 業 | 部 | 長 | 斉藤 | 隆一 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会 | 計 | 管 | 理 | 者 | 兼 | 務 | 企 | 画 | 財 | 政 | 課 | 長 | 藤田 | 年明 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総 | 務 | 課 | 長 | 山本 | 将世 | 君 | 能 | 生 | 事 | 務 | 所 | 長 | 土田 | 昭一 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 定 | 住 | 促 | 進 | 課 | 長 | 斉藤 | 喜代志 | 君 | 市 | 民 | 課 | 長 | 池田 | 正吾 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 青 | 海 | 事 | 務 | 所 | 長 | 井川 | 賢一 | 君 | 福 | 祉 | 事 | 務 | 所 | 長 | 水嶋 | 丈明 | 君 | | | | | | | | | | | | | |
| 環 | 境 | 生 | 活 | 課 | 長 | 五十嵐 | 久英 | 君 | 交 | 流 | 観 | 光 | 課 | 長 | 渡辺 | 成剛 | 君 | | | | | | | | | | | | | |
| 健 | 康 | 増 | 進 | 課 | 長 | 横澤 | 幸子 | 君 | 建 | 設 | 課 | 長 | 見辺 | 太 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 商 | 工 | 農 | 林 | 水 | 産 | 課 | 長 | 池田 | 隆 | 君 | 会 | 計 | 課 | 長 | 丸山 | 幸三 | 君 | | | | | | | | | | | | | |
| 復 | 興 | 推 | 進 | 課 | 長 | 斉藤 | 孝 | 君 | 消 | 防 | 長 | 大滝 | 正史 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガ | ス | 水 | 道 | 局 | 長 | 木村 | 清 | 君 | 教 | 育 | 次 | 長 | 佐々木 | 繁雄 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教 | 育 | 長 | 田原 | 秀夫 | 君 | 教 | 育 | 委 | 員 | 会 | こ | ど | も | 課 | 長 | 兼 | 務 | | | | | | | | | | | | | |
| 教 | 育 | 委 | 員 | 会 | こ | ど | も | 教 | 育 | 課 | 長 | 山本 | 修 | 君 | 教 | 育 | 委 | 員 | 会 | 生 | 涯 | 学 | 習 | 課 | 長 | | | | | |
| 教 | 育 | 委 | 員 | 会 | 文 | 化 | 振 | 興 | 課 | 長 | 歴 | 史 | 民 | 俗 | 資 | 料 | 館 | 長 | 兼 | 務 | 長 | 者 | ヶ | 原 | 考 | 古 | 館 | 長 | 兼 | 務 |
| 磯 | 野 | 茂 | 君 | 監 | 査 | 委 | 員 | 事 | 務 | 局 | 長 | 大嶋 | 利幸 | 君 | | | | | | | | | | | | | | | | |

十 〈事務局出席職員〉

| | | | | | | | | | |
|---|---|----|----|---|---|---|----|---|---|
| 局 | 長 | 小竹 | 和雄 | 君 | 次 | 長 | 松木 | 靖 | 君 |
| 係 | 長 | 山川 | 直樹 | 君 | | | | | |

〈午前10時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、1番、平澤惣一郎議員、11番、笠原幸江議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第2、一般質問を行います。

きのうに引き続き、通告順に発言を許します。

中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

おはようございます。

創生クラブの中村 実であります。

局地的豪雨災害について、1回目の質問を行います。

1、局地的豪雨災害について。

局地的な集中豪雨により、各地域で大規模な災害が発生し、糸魚川市においても多くの地すべり等が発生してしまいました。

能生地域においては、7月の豪雨で能生川の護岸が決壊し避難勧告が発令され、関係住民が避難をいたしました。ぎりぎりのところで、氾濫することもなく避難解除となりましたが、その後の反省点もあったように伺っています。

今後、行政としてどのように反省点を生かしていくのか伺います。

(1) 糸魚川市としての局地的集中豪雨対策はあったのか。

(2) 避難対象地域の住民からどのような意見が多くあったのか。また、行政としての反省点は何かあったのか。

(3) 防災行政無線の活用について。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

中村議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、地域防災計画に基づき対応を図っております。

2点目につきましては、市民から、避難勧告の区域がわかりづらい、避難所での被災箇所の状況がわからず不安だったなどのご意見をいただいております。

また、市といたしましても、避難勧告の区域をお知らせする広報や、避難所での情報提供等について、今後、改善をまいります。今回の避難勧告の発令については、適時適正だったと考え

ております。

3点目につきましては、豪雨時等、屋外スピーカーの音声が聞こえにくいことがあることから、戸別受信機の普及を促進してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

2回目の質問に入らせていただきますが、前回の田中議員の質問と、少しダブるところがありますが、改めて伺います。

まず、豪雨災害についてですが、最近、全国各地で多くの豪雨災害が発生しております。特に、中国・四国・九州方面に多く発生しているように思いますが、ここ数年、糸魚川地域でも集中豪雨による災害が発生しております。

最近では、集中豪雨の原因となる積乱雲の発生情報を早目に周知し、市民に知らせ、早期避難を促していますが、糸魚川市の気象は、どのように予想しているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

当市では、気象庁のホームページの情報に注視をしておりますし、また、新潟気象台と相互に情報連絡を図って対応をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

最近では、大変狭い区域での集中豪雨が多くあります。地域を絞るのは大変に難しいとは思いますが、今ほどの気象庁、また県の予報でピンポイントの予想を出せるのかどうか、それを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

気象庁の予報としては、糸魚川市のピンポイント予報は出していないというふうに承知しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

ピンポイントで出していないということは、糸魚川市としても、ピンポイントの情報は出せないということですのでよろしいですね。

最近の雨は、どうしても局地的に降る。やはり、ピンポイントの情報を得ないと、早期の対応はとれないと、私は思っているんですが、例えば冬の高速道路では、トンネル1つ越えると天気が全然違うということで、除雪作業等に使うために、民間の気象情報を活用して、ピンポイント情報を出してるんですが、糸魚川市としても、ピンポイントがなければ民間の気象情報を入手して、ピンポイント情報を出す必要があるというふうに、私は思っております。今まで、ある程度の知識を持った職員が気象を判断して予報を出しているのか、誰が管理しているのか、ちょっと伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

民間の予報気象会社と契約をすれば、情報を得るということは可能であるというふうに思いますけれども、現在、気象庁の予報や見解と、内容がどのように違うのかというようなことも含めまして、その情報をちょっと持ち合わせていないというのが現状でございます。

また、気象情報等の判断についてというご質問かと思えますけれども、気象に精通した職員はおりませんが、専門機関や県が開催する研修等に参加するなど、適切な判断ができるようにスキルアップに努めているところであります。

また、情報管理・指示等につきましては、消防防災課が、情報を収集・管理をしております、危機管理監から指示を出しております。そして、市長へ報告をする中で、災害対策本部等の設置、避難勧告等の発令等につなげているものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

やはり、この前の7月1日の災害はどうだったかわからないんですが、糸魚川市全体の様子をちょっと把握していないんですが、どうも糸魚川で、能生でたくさん降ったような、やはりピンポイントな、能生地域が大雨が降るとか豪雨になるとかって、そういうピンポイントな情報が、やっぱりこれから必要になってくると思うんですね。こここのところ、最近の気象を見ると、そういうところが非常に多いということで、逆に言うと、漁師の予報のほうがずっと、気象庁よりは当たるというのは、私そう思っております。

先ほど、市長答弁では、避難勧告の周知と、避難所での情報不足に不備があったというような答弁があったんですが、その不備というのはどのような内容なのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

避難勧告の周知につきましては、防災行政無線・安心メールなどにより行いまして、周知のタイミングにつきましては、情報の受信、それから現場の確認等を経た中で、適切であったというふうに考えております。

避難勧告の区域の周知につきましては、確かに住民の皆さんからご意見をいただいておりますように、集落単位・行政区単位での周知をすべきであったと考えております。今後の災害に備え、早急に整理をしてみたいです。

避難所につきましては、市民課長より答弁を申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田市民課長。〔市民課長 池田正吾君登壇〕

○市民課長（池田正吾君）

お答えいたします。

避難所の運営につきましては、主に市民課が担当をしております。今回、避難所では、やはり避難者の方が不安だということが多くありましたけれども、避難現場の状況、あるいは今後の見通しを説明してほしいといった意見が多く出されました。

説明につきましては、若干、やはり遅くなりまして、午後7時ごろとなったという点が、やはり反省点だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

私も、当日、能生小学校等に行ってきましたが、ほとんど情報が入ってこないということで、大変不安なひとときを過ごしていたというのが実際であります。

私が今、聞きたいのは、今ほど言った避難勧告、今回の場合、能生地区と西能生地区が対象でありましたが、西能生地区は能生川を挟んで両側に西能生地区としてあるわけですね。能生川の左岸側にある旭新町の人たちも、53人が能生小学校へ避難している。それも、濁流の中の、その濁流の能生川を渡って避難したということで、渡るときに大変恐ろしい思いをしたというような話も聞いております。

今回の場合は、西能生地区というくくりであります。旭新町は桂、鶉石方面は避難対象になってたのかどうか。もしなっていたとしたら、能生小学校ではなくて青年の館に避難するべきだと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

当初、大きなくくりという形で、西能生地区と周知をいたしたところではありますが、実際の状況として、西能生地区では大王地区のみが危険が及ぶ可能性がある区域として、避難勧告を出したことから、能生川右岸という形で修正をしたものであります。旭新町や桂、鶉石などが避難区域となった場合には、被災規模と状況にもよると思えますけれども、議員おっしゃるとおり、青年の館も有効な避難所として検討されると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

今回の場合は、右岸のほうが決壊するというところで、左岸の人たちが能生川を、濁流の能生川を渡って災害が起きるほうへ行くっていうこと自体が、大変危険な状態なんですよ。やはり、その辺は西能生とか能生っていうことじゃなくて、行政区で放送をする。行政区であると、いっぱいありますけど、やはり、いかに自分の地域が危ないかという周知するんなら、やっぱり行政区で放送してもらわないと、地元の人にもわからなかったんじゃないかなというふうに思っております。

当時の状況を見ますと、1日の朝より大変激しい雨が降り出して、10時40分に能生川脇の県道ボックスと、10時57分に町なかを流れている笹良川が冠水しました。11時16分に大雨洪水警報が発令されましたが、当時、朝から職員が情報収集してたと思うんですが、なぜ早朝からの雨にもかかわらず、対策本部は16時になったのか、その辺を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

各河川の雨量、それから水位や土砂災害警戒情報等を確認する中で、気象警報や土砂災害の前ぶれ注意情報も市内の一部に出されておりましたが、気象状況が徐々に回復傾向にあったということから、状況を注視していたところでございます。

そのような中で、能生川の大王地内の堤防が急激に崩壊し始めたという通報を受けまして、甚大な局地的被害が発生するおそれがあるものと判断をいたしまして、直ちに災害対策本部を設置し、勧告を発令したというものでありまして、市長答弁にもありまして、適時適正な処置であったというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

市内の一部っていうことで、やはり能生に集中豪雨、集中して雨が降ったというふうに思うんですが、今、適時適正な処置だということでありましたが、これも結果論になると思えますが、時間を追って整理してみますとわかるんですが、今ほど言いましたように、能生地域は10ミリを越す大雨が朝から降っていたと。10時現在の能生地域の1時間の雨量が24ミリ。10時40分過ぎ

に県道のボックスと笹良川が冠水し、11時には34ミリの雨量が観測されております。この時点で、笹良川周辺住民に生涯学習センターに自主避難が促され、数名が避難をしたというふうに、私、聞いておるんです。そして11時16分、大雨洪水警報が発令され、11時24分、土砂災害前ぶれ情報があったということです。そして11時30分に、能生インターが閉鎖されたと。

私は、この時点で対策本部を設置する判断を下すべきだったのではないのかなというふうに思うんですが、それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

議員のほうからもお話がありましたとおり、消防や庁内関係課で、朝から警戒・巡視の活動を実施していたことや、市内では10時から11時の時間雨量が30ミリを超えた地点がありました。対策本部設置の基準に達していなかったことから、今回、まだその段階ではないという判断をしたものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

先ほど話がありました適時適正な処置。それは、私は笹良川に、周辺の地域に避難命令、避難が促されたという時点で、既にもうそこに達してるというふうに、私は思ってるんですよ。そして、12時になりますと能生地域の雨量は26.5ミリ、13時では25.5ミリ、そして13時30分、1時半に筒石1区の中郷で地すべりが発生しております。その5分後の13時35分、能生地内で土砂崩壊が発生したにもかかわらず、まだ、対策本部が設置されておられません。そして、やっと16時、今、言ったみたいに16時に対策本部が設置され、その直後に避難勧告が発令されましたが、この、私、時系列を見ていくとよわかるんですよ。これは地域防災計画に沿った対応なのかという、大変、適時適正にされたということで、もう一度お伺いしますが、本当にこれ、適時適正だったというふうに言えるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

結果として、対策本部をもっと早く設置すべきとのご指摘でありますけれども、今後も、被害の状況や雨量の状況等を把握する中で、対策本部等の設置に努めていきたいというふうに考えております。

それから、避難勧告の発令につきましては、水防団待機水位を少し超えた時点、これは、避難準備情報を出す少し前の状態、その基準にも達していないという状況において、急に決壊のおそれが出たわけでありまして、その後、避難勧告を発令したということで、対応としては適正であったというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

能生川の水位を見て判断されたということだと思うんですが、実際に、小さい笹良川等がもう氾濫していたわけですね。だから、その辺である程度の準備っていうか、そういうことも考えていく必要があると思います。

今回は、能生川の洪水避難勧告だけがクローズアップされておりますが、私が心配しているのは、小泊や玉ノ木で死者を出す地すべりが、過去にあったわけですね。そういうところ、非常に、私もそうなんですけど、その辺に住む住民の人は、今回のほうが大変な恐怖を感じておったわけであります。

私は、糸魚川市大雨対策本部設置前に、土砂災害対策本部を設置する必要があったというふうに、私は思ってるんですよ。今回、みんな川っていうふうに思ってるんですが、何で土砂災害対策本部がなかったのか、その時点では、まだ考えていなかったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

土砂災害につきましても、決して考えていなかったわけではございませんで、朝から警戒巡視を行ってたと、先ほども申し上げたとおりでありますけれども、県の土砂災害警戒情報システムなどでも情報収集を行って、注視をしていたという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

既に、11時半過ぎに2カ所、地すべりが発生してるんですよ。それにもかかわらず、その本部を立ち上げていないというのは、私、非常におかしいなというふうに思うんですが、今回、雨で人命にかかわるようなことはなかったんでありますが、やはり早目に対策本部を立ち上げるということは、非常に大切だと思うんですよ。事故がある、災害がある、ない、別として、そうすることによって、正確な情報収集ができて、住民へ周知することができたのではないかと。それは、今までの訓練や教訓の結果からの段取りで、今回の対応になったと思うんですが、今までの教訓を生かした対応だったということによろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

当日は、お昼近くにもかけて市内あちこちで、1時間30ミリ前後の雨が降ったり弱まったりと

というような状況でございました。

そういう中において、午前中から私どもの職員が、警戒・情報収集・対応に当たっております。そういう中において、今、中村議員がおっしゃられるように、警戒本部というような形のものを立ち上げておいたほうがよかったんじゃないかという点については、振り返ってみれば、そのような警戒に当たっておりますので、本部体制をしくという形のほうがよかったのかなという点はございますが、実際に情報収集・警戒に当たっております。本部という形をとらなかったんですけども、対策本部を設置する前に、そのような状況にあったということで、振り返ってみれば、その時点で警戒本部というような形のものを設置したほうがよかったのかなというふうには感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

実際に11時半に、2カ所も災害が発生しておるわけですよ。やっぱり、それに対しての何か対策をとる必要もありますし、申しわけないけど、私、これ時系列見て言ってるんで、悪く言えば何でも言えるんで、少しひきょうなところもあるんですが、ただ、昨年の5月に姫川で水防訓練が行われました。それは、7.11水害から20年の節目ということで水防訓練を行われて、当時、市長は、今回の教訓を機会に水防技術の向上や体制の強化を図りたいというふうに言ってたわけですが、今回の集中豪雨に対し、水防訓練の成果と、7.11水害の教訓はどのようなところに生かされたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり危機意識をしっかりと持って、そして、それに対する対応というものに対しては、やはり最善の策を講じていかななくてはいけないという、判断というのが求められるわけでございまして、そのような中で、もう即、やはりどういう対応をすればいいのかという中で、田んぼをお借りしてそこから入っていくと。やはり、一番その、田んぼというのはなかなか農家の皆さんにおかれましては大切な生産の場であるわけでございますので、どうしてもちゅうちょするところがあるんですが、今回は、それをちゅうちょすることなく、即もう、お借りするように対応させていただいて、そこから備蓄材のブロックを入れさせていただいた。それを早急に進めていくには機動力という形の中では、やはり建設業の皆様方にお力をいただく中で対応させていただきました。やはり、それだけの能力は行政にないという中においては、早急な対応の中で取り組んでいただいております、そういう形でこれからも取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

そういった、今、市長が言われたように、多分、水防訓練の成果とか7.11の教訓が、その辺に生かされたんだろうなというふうに、私も理解しておりますが、やはり、対策本部を早く立ち上げることで、市民への周知が早く行える。市民も、やっぱりそういうふうに、今、市長言われたように危機感を持って、雨を、雨降りを見ていかれる。やはり、心の準備ができるということを、私、申し上げたいんです。

ただ、この7.11水害の教訓は、今、市長が言われたみたいに、今回も生かされたということではありますが、ここに、議場にいる部課長連中ぐらいが当時を知っている。あと、若い職員はほとんど知らない人が多くなってきているんじゃないかなというふうに思っておりますが、若い職員に7.11水害の教訓をどのように伝えてきたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

議員のほうから、先ほどもありましたとおり、平成27年度には7.11水害20年事業を開催をいたしました。また、昨年、当市で7.11水害の被害規模において、姫川の水防演習を国交省主催で大々的に実施をするなど、若い世代にも、この災害の悲惨さや、得た教訓を受け継いでいくための事業を、開催をしているところであります。また、7.11水害の状況につきましては、災害のたびに引き合いに出したりして、若手職員にも伝えているというつもりでございます。

いずれにいたしましても、過去の大災害を風化させないということで、新たな被災事例等も複合的に取り組みながら、今後の災害対応に役立ててまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

大変貴重な7.11、経験だったと思うんですね。今回も、幾らかはその経験が生かされたというふうに思いますし、若い職員も、今回、結構現場へ張りついたり、避難所へ来てくれたりということで経験してますんで、やはり7.11とあわせ今回の災害も教訓の1つとして、これからも残していただきたいというふうに思います。

当日は、7月1日の16時8分に避難勧告、解除が4日の8時半ということで、大変長時間でした。今回の災害に対して、後日、住民から多くの意見を、私も伺っております。当然、既に市としても集約されていると思いますが、どのような問題があり、集約を行ったのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

先ほど、市長答弁にもありましたとおり、避難勧告の対象地区の範囲が明確でなかったのではないかと、または、わかりづらかったというようなこと、それから、発令期間が長いのではないかと、

それから、避難所での被災箇所の情報が入らず不安があった等の意見を伺っております。それらの対応について、検証をしたものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただいて答弁させていただきますが、今ほど述べたことと、もう1つはやはり、私は、住民の皆様方に、また水害、最近の集中豪雨の特徴などを、これからしっかりと連携をとりながらいかなくてはいけないなと思っております。自己判断で対応するようなことが、結構、多くなっておられるのではないかなと。最近の全国の集中豪雨を見ておりますと、ピンポイントで来る部分がございます。

そのようなことで、どのような、やはり自主避難や、そして避難を回避するということができるのかというのを、やはり全国で事例がございます。7.11、本当にもう古くなっておりまして、今、それ以上の降雨が来て、姫川も非常にそれ以上の水量が流れておる状況でございますので、そういったところを、住民の皆様方とともに、これからはやらなくてはいけない。行政だけで全てできるものではないという状況がございます。一時避難的にはやはり、自助、そして共助に入っていく部分があるわけでございますので、そういったところを、自助・共助というところを、やはりもう一度、みんなで理解をし合いながら、進めていかなくてはいけないのではないかなと感じた次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

やはり、その辺の集中豪雨的なものを、市民からやっぱり理解していただくということは、大変大事なことだと思うんですね。

ただ、この前、消防長の答弁の中で、避難率が15%ぐらいだったと。全国的に見ると、15%は高いという、高いっていうか15%ならいいほうだというような答弁が、たしかあったと思うんですね。それ、15%がいいのか、私、15%、えらい低いなと思ったんですね。やはり、今回15%しか避難しなかったんだから、それがもう少し避難できるように、前段でやっぱり周知っていうのは必要ですね。この地域はこういう災害が多いんだということを、やっぱり危険箇所に住んでいる人たちに知らしめるということは、大切なことだと思うんですね。

ただ、そのまとめをしっかりと、やっぱりね、今回の、いろんな人たちから聞いたことを、しっかりとまとめをして、それを後に残すようにしていく必要もあるし、できたら最終的にはまとめたものを、私たち議員にももらえればありがたいなというふうに思っています。

既にもう、7月1日から2カ月半ほどが過ぎておりますが、8月に入っても9月に入っても、まだ強い雨が降ります。聞くところによると、最近、西海で大きな地すべりが発生したと聞いておりますが、それは民家に影響がなかったのか。また、時間帯が夜だったということで、池田課長担当

と思うんですが、池田課長や担当の人たちが、どのような対応をとったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

9月8日、金曜日ですけれども、釜沢道平の林業地すべり防止区域内で、地すべりが発生をしております。地元で18時に、木がばきばき音を立てておるといふ情報を得まして、消防のほうへ連絡をいただいております。

その後、河川・砂防課でありますとか森林施設課、これ振興局であります。そういう方々と一緒に、地元へ、現地のほうへ赴いております。その後、暗いもんですから投光器で照らしながら、消防団による監視体制を一晩、継続をさせていただいております。翌日、ドローンを飛ばしながら概要を把握をして、地域振興局と一緒に現地踏査を行う中で、12時30分には小康状態にあることを確認をさせていただいております。規模については、幅が大体100メートル、長さが430メートルということで確認をしております。

今後につきましては、地元、それから消防・警察・振興局・市と、ここら辺の連絡体制を、現在、確認をして、今後の警戒に当たっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

時間帯が少し遅かったということで、もう職員の皆様もいただいている人もいるんかと思いますが、大変、時間帯も夜になると、大変危険なあれですよ。今ほどの課長で、音を立てて、音が聞こえて発見したという、木の根っこが切れる音とかなんですよ、これは。小泊の地すべりも、うちのおふくろが第一発見者なんですけど、後ろでびちびちびちびちと音がするというので、振り向いたら、山がゆっくりずってきてる。そういう兆候があるんで、やっぱりそういう地域に住む人たちには、いろんな情報、地すべりはこういうことがあれば起きるんですよとか、ひび割れだとかいろいろあるんでね、そういう情報も、やっぱり知らせてみる必要があると思いますが、また、きょう、私、朝の天気予報見ると台風18号が、相当強力な台風が北上していると、新潟のほうへ向いているということがありました。

これから台風の時期に入りますが、台風による豪雨で、地盤の緩んでいるところで災害が発生する、今みたいに、災害がまた発生してしまうんですよ。早急に各地域の地すべり監視員の方から、現地調査をしていただきまして、危険箇所がないか確認してもらう必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

地すべり巡視員の皆さんには、毎月しっかりと点検をしていただいておりますが、こういった兆候があるのか、こういった兆候が見られた場合に危険なのかといったことも、しっかりと学習をしながら、今後もしっかりと対応していただきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

月に1回という話ですが、こういうときになれば、やはり雨が続いたときは、月に2回でもやはりやるべきだと思いますし、最近、昔は山等、みんな行ってる人が多いんで、草も生えてなかったんですが、最近もう、草でほとんど道がない状態で、地すべり地帯も、ひび割れがあっても見つけづらい状況になってると思うんですね。やはり、一番状況を知ってる巡視員の方が、大体どの辺をというふうに考えて、草刈りをしながらでもよく点検していただく等は必要になると思うんで、その辺もよく指導しながら、点検回数をふやしていただきたいというふうに思っております。

次に、避難所について伺います。

今回の避難所は、能生小学校と海洋高校の2カ所だった。田中議員の答弁のときには、町なかの避難所は、避難区域の中にあるので、高台の2カ所に決めたというふうに、消防長が申しておりました。能生川が決壊し、濁流が流れる方向に向かって、町内の人たちは歩いて行かなければいけない。やはり、避難区域内であっても、近くの避難所に行くことが安全だと、私は思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

危険が差し迫っている状況下では、市民がみずからの判断でということで、先ほど市長答弁にもありましたとおり、市民みずからの判断で、近くの頑丈な高い建物に直ちに逃げ込むということが、命を守る行動につながるというふうに思いますが、今回は、時間的に暗くなる前であったことなども考慮をいたしまして、できる限り安全な高台に避難することを優先して、避難所を設定したという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

近くには、町内だとすれば、近くには能生事務所や生涯学習センター、また、旧保健センターもあります。津波なら、当然、今回のような能生小学校、それから海洋高校という、それはベターでありますよね。でも、今回のように洪水なら、やはり近くの建物が、私はよかったと思うんですけど、どうしてそういう判断ができなかったのか、もう一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

議員おっしゃるのは、津波避難も含めてってことではないですね。

議員おっしゃるとおり、近くにも建設会社等の建物もございました。ただ、そこでの避難場所、避難所としての指定等も行っていなかったというようなこともありますので、今後は、市の施設だけではなくて、所有者からもご理解いただく中で、民間のそういう建物などもお願いをしてみたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

当日は、能生小学校と海洋高校の2カ所に避難をしたということですが、生涯学習センターにも、避難をした地区があるんですよ。消防長、聞いていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

聞いていたら、それが果たして正しかったのかどうだったのかということですね。

当日、その避難情報を、避難勧告の情報を聞いて、その近所の区長さんが地域の、自分の区内を回って、一緒に避難しましょうっていう行動を起こしたんですが、決壊しそうな能生川の上流に向けて行くんなら、近くにいい建物があるんで、そこへ避難させてくれというふうに言ったら、ここは避難所に指定されていないんでだめですというふうに言われたと。だけど、区長としてみれば、あえてお年寄りを遠いところまで避難させるよりは、ここのほうが安全だと思って、私が責任持ちますんで避難させてくれと。そこで避難をさせていただいたということなんですよ。相当な、何人ですかね、50人ぐらいの人が避難されたんですよ。17時30分に、無事に49名が避難されて、19時に解散をしたと。

やはりこれ、地区民を守るために、やはり瞬時の判断っていうのが、長とすれば大事なことだと思うんですよ。やっぱり、私はこの区長の判断が正しかったというふうに、私は思うんです。市長は、どんなもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

+

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、適正だったと思っております。我々はやはり、先ほど言いましたように、自己で判断をするという中においては、悪い部分もあるかもしれませんが、やはりそれしかない、また、自分がこれがいいと思ったら、やはりそれはそうすべきだと思っております。ただ、要するに行政の情報のみだけで判断、私は、非常に危険なものもあるかもしれません。それは、みずから日ごろから、そうして自分たちの地形等を考えて、判断をするべきだと思いますし、そういったことを、これから反省の中で修正をしながら、また、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

やはり、2カ所に決めるんじゃなくて、やっぱりさっき言うように、早い時点で本部を立ち上げると、いろんなその考えができると思うんですよ。今ほど言われた、建設会社、あそこも3階なんで、あそこにも避難することもできると思いますが、津波避難ビルとか洪水避難ビルになっていないということで。あの地域では、そういうところ少ないんでね、あんな頑丈な建物、やはりお願いしておく必要があると思うんで、ぜひ、近いうちにまたお願ひしたいというふうに思います。

また、能生小の人たちも、海洋もそうなんですけど、ほとんど情報が入ってこなかったし、居心地もすごく悪かった。だけど、生涯学習センター、あそこはクーラーも入ってるし、テレビもつけてくれたということで、早々の情報が入ってきたようなんですよね。やっぱり、そういう部分も使えるところはどんどん使っていただきたいというふうに思いますし、今回みたいなやっぱり災害の場合は、1分1秒を争うんでね、なるだけ近場へ逃げ込むということも、今後、区長会、頭になる人たちにも教え込んでいきたいなというふうに思っております。

それから、これも先週の田中議員の質問にもありました、能生川の河床を見ると、相当河床が高くなってきているというふうに、私は思います。能生川の河床整備を頻繁にやらなくなって、約10年以上たつというふうに、私は思うんですが、ここ数年の大雨で、毎年、河床がどんどん上がってきている。もし河床整備がされていれば、災害が起きなかったのではないかなというふうに、私は思っております。

見辺課長のほうで、河床は高いのは、全然、関係ないんだという答弁がされまして、私もちょっとびっくりしたんですが、本当に河床高が上がっていても、今回の災害とは関係ないというふうに思っていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

先日の田中議員の一般質問における私の答弁が、舌足らずで真意が伝わっていなかったとしたら

申しわけなくと思いますが、今回の被災の原因としては、やはりこれだけの大雨と、また川の流れというこの自然現象の中で、なかなかその原因が何であるかといったことの特定は、非常に難しいのかなというふうに考えております。

1つには、いまだかつてないこの大雨というのは、1つの原因であろうというふうにも思いますし、また、施設が護岸等が非常に老朽化しておったといったことも、原因の1つであるかもしれません。また、そういった意味では、議員がおっしゃられる河床の高くなっていったことも、また、原因かもしれませんが、ただ、いろんな原因が複合した中で、自然現象の中で起こったことであって、これが原因でございましてといった形で、1つに特化することについては、ちょっと今のところ非常に難しいのかなというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

私も、これが原因で決壊しそうになったというふうには言ってるわけじゃないんですよ。

当日、私も現地を見にいったんですが、やっぱり水位が下がってきたときに、真ん中の河床がすごく高いんですよ。真ん中が高いつてことは、今回、決壊したとこにその激流がぶつかる。それによって、決壊する。この前、市長が申し上げた、水が引くときに決壊するんですよ。今回の場合は、水位が上がって、上のほうの弱いところに水が入って、水位が下がるときに吸い出しを食って決壊したんだろうというふうに、そういう原因もあると、私は思うんですよ。やはり、真ん中の河床が非常に高いんですよ。だから、どうしても両脇が傷んでしまう。だから、河床を下げないと、そういう事故が発生するというのを、私、言ってる。

だから、これは、河床を下げるのは市の仕事じゃないですが、県の仕事ですけどね、やはりそういうこともお願いしていく必要もあると思いますし、能生川だけじゃないですね、早川とか西海のほうの川も、やっぱり一緒だと思いますし。

それとあわせて、中洲から、山が崩れて木が流れる、河へ流れる。中洲にある木が海へ流れるという、そういうことも発生しております。その辺のことも考えると、立木伐採も河床とあわせて、県へお願いしていく必要があると思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

議員おっしゃられるとおり、今現在、2級河川のお話でございましてけれども、市内における、例えば能生川であったり早川であったり、あるいは青海川、いろんな川がございましてけれども、県のほうで管理していただいております。

その中で、やはり議員おっしゃられるとおり、河床は曲がってますし、木も非常に大きくなるところもございまして。たくさんございまして。それは、やはり地元の皆さんも心配をいただいております。

りまして、市を通じて県のほうに、早く切ってください、早くしゅんせつしてくださいというご要望は、たくさんいただいております。

ちなみに能生川につきましては、近々で言いますと、平成26年度からでございますが、中野口・藤後、あるいは溝尾・物出といったいろんなところで、実際に県はしゅんせつをやっていただいております。それは、やはり県の予算にも限りがございます、緊急度の高いところからといったことを、県は考慮しながら、事業を進めていただいております。その中で、計画断面、あるいは計画勾配をしっかりと確保する、あるいはスムーズな水の流れを確保するといった河川の中で、立木伐採も含めてしっかりと県のほうに要望してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

立木も、海に流れ出しますと漁船の事故にもつながります。また、景観も小弱すること、景観もすごく悪くなりますよね。夏前には立木処理してもらっていますが、今後も引き続き、港湾課か河川・砂防課になると思うんですけど、しっかり要望していただきたいと思います。

市内には、今の地すべりになるんですけど、市内には多くの集水井、また横孔ボーリングをしてみると思うんですよね。そういうところを、古くなって水がもう出なくなってきた。そういうところの掃除もしていく必要があると思うんですが、民家に近いところから県のほうに要望をして、その辺もお願いし、災害を発生しないような対策もとる必要があると思うんです。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

市内における地すべり防止施設につきましては、一応、県が所管しておいて、その施設については老朽化している施設もかなりあるというふうには、把握しておるつもりでございます。

その中で、やはり水が出なくなったとか、施設が老朽化して機能を減少している、あるいは失っているといったところも多々あると思います。やはり、そこところは議員おっしゃられるとおり、優先度の高い、特に民家に近いとか、緊急度を増すところについて、やはり積極的に県のほうにお願いをして、安全・安心な生活に寄与していきたいというふうを考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

地すべり指定地あたりへ行っても、ほとんど横孔ボーリングから水が出てないという状況もよく見られますし、集水井にしたって音がほとんど聞こえないという集水井もあります。早急に順序立ててやっていただきたいと思います。

特に、最近いろんな災害、地すべり等が発生してますよね。去年、ことしあたりもそうですが、昨年と比べ、どれぐらいの災害が発生しているのか、また、ボリュームがわかりやすいということで、金額等か件数がわかれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

近年しばらく、災害っていうのは少なかったんです。ところが、昨年から徐々にふえ始めまして、例えば平成28年度、昨年度ですが、建設課所管では細かいところも含めると58件といった形で、金額にしますと約7,000万円ぐらいになっております。

また、今年度におきましては、件数は46件でございますが、これは、ほかの年に比べて多いほうでございます。プラス、今現在ですが、約1億円ぐらいの被害額っていいですか、復興額になっておるといことで、徐々にゲリラ豪雨もあったのかその原因なのかあれですが、基本的に大きな災害に激甚化っていいですか、大きな災害につながっている兆候があるのかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

近年の商工農林水産課で所管しております農地・農業用施設、それから林業用施設が商工農林で所管しておるわけですが、その件数と金額について、手持ちの範囲で説明をさせていただきたいと思っております。

平成26年度につきましては件数で40件、平成27年度は43件、そして平成28年度につきましては件数で110件、金額で言いますと1億5,800万円、平成29年度につきましては、まだ年度途中でありますが、107件の2億4,100万円ということであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

今、数字聞いただけで、相当、件数がふえ、金額もふえているということでもありますので、何か対策を考えていく必要があると思うんですよね。

山のほうでは、ボーリング等、あんまり数入ってませんけど、やはり山のほうの集水井たちも点検をしていく必要があるというふうには思っております。

次に、議会の初日に報告がありました、Jアラートと防災無線との不調のふぐあい、これ、ふだんは正常に動いているんですが、大切なときに大体、故障がするというのが普通だと思うんですが、戸別受信機、約60%ということでありましたが、今後、災害の今、発生しそうな地域を、特別強く受信機を設置するようにお願いする必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

戸別受信機につきましては、先日、約60%と申し上げました。この9月1日現在でありますけれども、糸魚川市全体として62.4%の普及率となっております。

この戸別受信機につきましては、情報の手段として、大変重要なものだというふうに捉えております。防災行政無線のデジタル化の工事に合わせまして、戸別受信機の普及拡大をさらに進めてまいりたい、努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

戸別受信機、大変大切なものだというふうに思っています。市民の生命・財産を守るための放送が流れるということをお願いして、残り、62.4%ですから38%ほどの普及を、早急に進めていただきたいというふうに思っております。

最後に、洪水ハザードマップ・津波ハザードマップですが、これも田中議員の答弁で、消防長はハザードマップはつくりないと、はっきり明言をいたしておりますが、平成22年度に配布したころと、津波高も今、修正されてくると、高くなるのか低くなるのかちょっとわかりませんが、修正するということがありますし、私、能生のハザードマップを見ますと、古いのも、例えば旧体育館もまだ入っていたり、いろいろと必要のないところも、あれ、よく見ると生涯学習センターとか能生事務所が入っていないんですね。その辺も、正確に今度つくり直す必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えをします。

田中議員の質問に対しましての説明が、十分でなかったのかなというふうに思っております。

ハザードマップはつくりないということではなくて、例えば川のことと言いますと、姫川では、例えば国からの情報はいただいております。県のほうでの、まだ調査がこれからというようなことで、2級河川もそうですけれども、情報がいただいたならば、議員言われるように、マップは、当然、つくり直す必要があるというふうに考えておりますので、繰り返しになりますけれども、国・県において最新の情報、津波もそうですけれども、情報が公開された際に、市で改定をする

予定としているものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

津波も洪水もそうですけど、全戸に配布しなきゃいけないんでね、大変な金額がかかると思うんで、ちょこっと変わった形でつくれるものじゃないと思うんですよね。やはり、今後、津波高が多分、近いうちに変更になってくるのかなというふうにも思いますし、今回の能生の洪水に関して言えば、マップの避難範囲よりは広い範囲を想定して避難させたという、そういう辺もやはり最近の集中豪雨だとかいろんなことによって変わってくる、過去と、平成22年当時と。平成22年に配布したということは、その何年か前に計算しているわけですから、やはり相当、変わってきておると思うんで、その辺もやはり考慮しながら、現状に合ったマップを、やっぱりしっかりとつくっていかなきゃいけないと思いますし、今、時代なんで、航空写真でマップで納めてもらえれば、大変見やすいんじゃないかなと思います。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

洪水の関係につきましては、平成22年にお配りしたものとしましては、70年に一度の雨とか、時間雨量52ミリというような想定であります。

今、国のほうでもいろいろ進めております。例えば100年に一度の大雨とか洪水とかいうようなことでの対応ということで進めておりますので、それに沿って進めてまいりたいというふうに思いますし、航空写真的なものも有効ではないかということで、平成19年だったと思いますけれども、土砂災害のハザードマップ等もお配りさせていただいております。その辺につきましては、航空写真を利用した形での作成というふうになっております。

いずれにいたしましても、最新の情報に基づきまして、適宜、見直しをして、市民の皆さんに周知をしてみたい、また説明もさせていただきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

今ほど、消防長が言われたみたいに、確かに70年に一度、もう70年に一度という時代じゃないですか。もう10年を見据えてつくっていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で中村議員の質問が終わりました。